

仕事のやりがいや業務内容について語り合う福祉施設の職員と学生＝半田市の雁宿ホールで



半田 大学生向けに仕事紹介イベント

福祉やりがい知って
 大学生に福祉の仕事を紹介するイベント「ウェルフェアワークス 福祉との出逢い」が六日、半田市の雁宿ホールで開かれた。将来の福祉人材を育もうと、市内の事業所で働く職員が中心となって企画。「福祉のやりがいを知り、職業の選択肢の一つとしてほしい」と呼び掛けている。
 (山岸弓華)

「なぜこの仕事を選ぼうと思ったのか」「困った人を助けたい思いで、この世界に飛び込んだ」。参加した学生二十人余りは四グループに分かれ、特別養護老人ホームや病院などで働く職員らに、業務内容ややりがいについて質問した。

和気あいあいとした雰囲気の中、学生たちは職員の言葉を熱心にメモを取った。参加した日本福祉大一年の石巻花菜さん(こはな)は「幅広い視点で福祉の仕事を知ることができた。まだ明確に就職したい職種があるわけではないが、勉強になった」と語った。

福祉業界の人材不足を懸念する市内の事業所職員有志が中心となり、イベントの実行委員会を立ち上げた。実行委代表で、社会福祉法人「椎の木福祉会」(同市椎ノ木町)職員の岡崎将司さん(さとし)は「生産人口の減少で、人材不足は今後ぶつかる壁になる。若者たちに、事業所自らアプローチしていくことが必要」

と話す。「きつい」「大変」といった業界のネガティブなイメージを払拭するのも、目的の一つだ。二十日には、学生を対象に市内の福祉施設を巡るバスツアーも開催。コロナ禍でオンライン学習が主流になる中、現場を見ることで、仕事の理解をより深めてもらおう考えた。岡崎さんは「専門職や利用者の方と触れ合うのは大事。今後も福祉の仕事を学ぶ機会を設けていきたい」と話している。